

## 調査結果に関する報告

本報告書は、調査より得られた数値をもとに、本学の典型的な学生像を把握することを目的とする。報告書において以下で掲載される統計の形式の関係上、平均値ではなく、最頻値や割合・分布に注目する。キャンパス別・学部別・学年別の差異に関しては、特筆すべきものが確認された場合に限り、報告する。経年変化については、例年と比べ特段の顕著な特徴がなかった場合はあえて言及しない。

### I 生活

#### 1. 通学・住居 (Q1～Q4)

コロナ禍前は「通学日数」を尋ねていたが、対面授業に加えてオンデマンドやオンライン授業形態もあることから、本調査では「週に何日履修しているか」を尋ねた。キャンパス・学部・学年で比較すると、とりわけ学年による違いが顕著である。最頻値は1・2年生が週5日、3年生が週4日、4年生が週2日である。ただし4年生については、週2日(30.3%)と週1日(29.5%)が僅差である(昨年度は週1日が最頻値であった)。さらに、本年度より新設された「集中・その他の科目のみ履修」を選択した割合は4年生(6.9%)がそれ以外の学年(1年生0.0%・2年生0.3%・3年生0.4%)に比べて相対的に高い【Q1】。

「何曜日に履修登録しているか(複数選択可)」を尋ねたところ、各学年とも月曜から金曜までほぼ同程度である。1年生は土曜日でも36.1%(昨年度28.5%)が履修しているが、2年生(11.7%)、3年生(5.7%)、4年生(3.9%)と学年が上がるにつれて、土曜日の履修は減る傾向にある【Q2】。

「大学までの通学時間」はキャンパスごとに違いがみられる。市ヶ谷は30分～1時間未満(35.2%)と1時間～1時間30分未満(40.6%)が多く、合計で75.8%を占める。多摩は30分～1時間未満(26.9%)が最も多いものの、1時間30分～2時間未満(23.6%)、1時間～1時間30分未満(21.9%)と大差はない。小金井は1時間～1時間30分未満が最も多い(32.2%)。2時間以上の割合は、多摩・小金井(15.1%・11.5%)が市ヶ谷(4.2%)よりも顕著に高く、また30分未満の割合も多摩・小金井(12.5%・18.0%)が市ヶ谷(5.8%)よりも顕著に高い。これらのことから、市ヶ谷に比べて多摩と小金井では学生間での通学時間の違いが大きいことがうかがえる【Q3】。

「住まいが自宅か自宅外(アパート等)か」もキャンパスによる違いがみられ、自宅外(アパート等)から通う学生の割合は、多摩(35.8%)が市ヶ谷・小金井(19.8%・19.7%)よりも高い。学部別にみると、自宅外の割合が最も高かったのはスポーツ健康学部(39.1%)、次いで現代福祉学部(37.9%)、社会学部(36.7%)である。一方、最も低かったのは国際文化学部(13.2%)、次いで人間環境学部(13.8%)である【Q4】。自宅外生に「春学期期間中はどこで過ごしたか」を尋ねたところ、「ずっと自宅外」が94.2%であり、昨年度(87.6%)に比べてこの割合は増えている。なお「最初は自宅で途中から自宅外」は4.7%、「最初は自宅外で途中から自宅」は1.1%である【Q4-1】。

「最初は自宅で途中から自宅外、最初は自宅外で途中から自宅」を選んだ学生に「途中で移った理由(複数選択可)」を尋ねたところ、最も多いのが「その他」(57.7%)、次いで「対面授業を受けるため」(30.8%)、「アルバイトをするため」(11.5%)である【Q4-1-1】。

自宅外の学生に「住まいはどちらで探したか」を尋ねたところ、最も多いのは「外部の不動産業者」(56.1%)であり、「インターネット」(21.0%)、「大学(大学推薦寮、大学が委託する不動産業者を含む)」(18.3%)が続く。キャンパス別で目立った差異はみられないが、学部別ではGIS(50.0%)と生命科学部(35.3%)の学生が「大学(大学推薦寮、大学が委託する不動産業者を含む)」を使って住まいを探した割合が相対的に高い【Q4-2】。

「家賃」はキャンパスによる違いがみられる。市ヶ谷では6万円台(20.6%)と7万円台(20.2%)が最も多く、学生の家賃の約6割(58.4%)は6～8万円台に分布している。多摩では5万円台(23.7%)が最も多く、次いで6万円台・7万円台(いずれも17.8%)が続く。小金井では7万円台(24.1%)が最多で、次に5万円台(22.4%)が多い。一方、10万円台以上の割合は市ヶ谷(16.4%)が顕著に高く、多摩・小金井(3.3%・3.4%)を大きく上回っている【Q4-3】。

「学費を除いた仕送り額」の最頻値は、月額5万円台(18.3%)である。また月額5万円未満が45.0%(昨年度40.8%)、月額6万円以上が36.3%(昨年度42.0%)であり、全体として昨年度より仕送り額が減っている傾向がうかがえる(この他にも、月額10万円以上の割合は昨年度の23.8%から本年度は17.4%に減少している)。「学費を除いた仕送り額」の最頻値は学部で違いがみられ、「1万円未満」の割合が多い上位3学部は、経営学部(30.6%)、人間環境学部(25.0%)、国際文化学部(20.0%)である【Q4-4】。

## 2. アルバイト (Q5)

アルバイトは多くの学生が経験していた。アルバイト経験の「ある」学生(82.7%)が「ない」学生(16.7%)を大きく上回る。学年別にみると、アルバイト経験の「ない」学生の割合は、1年生26.9%、2年生8.4%、3年生8.4%、4年生6.3%と減少する【Q5】。

アルバイト経験者に「アルバイトをする時期は、主にいつか」を尋ねたところ、「年間を通して」が最も多く、全体の90.3%を占めた【Q5-1】。また「どこでアルバイトを探すか(複数選択可)」については、「インターネットで」(77.6%)が最も多かった【Q5-2】。

「アルバイトに費やす時間(今現在の月あたり平均時間)」を尋ねたところ、平均時間は幅広く分布しており、最頻値は40時間と50時間(いずれも15.8%)であるが、20時間(12.5%)・30時間(15.1%)・60時間(12.2%)も同じ程度の割合を占める。20～60時間の範囲に約7割(71.4%)の回答が分布している。なお、長時間労働と考えられる100時間以上と回答した学生の割合は2.0%であり、昨年の1.4%から微増している【Q5-3】。

「アルバイトの収入額」は、月あたり「平均5万円」(15.1%)が最頻値である。また月3万円～8万円の範囲に約7割(72.2%)の回答が分布している【Q5-4】。

「アルバイト収入の使途(複数選択可)」は、「娯楽・交際費(82.9%)」が圧倒的に多く、次いで「貯金(54.6%)」、「食費(51.6%)」、「服飾費(50.2%)」、「日用品費(43.0%)」が選択されている【Q5-5】。

## 3. 奨学金 (Q6～Q8)

奨学金を「必要としている」と回答した学生(36.4%)は、「必要としていない」と回答した学生(63.3%)よりも少ない【Q6】。

この傾向は実際の受給状況に現れており、奨学金を受けている学生の割合(22.2%)は、受けていない学生(77.6%)よりも低い【Q7】。

奨学金を受けている学生に「希望する奨学金の金額」を尋ねたところ、月額 5 万円が最も多く (26.8%) 【Q7-1】、実際に受けている月額も 5 ～6 万円未満が最も多い (18.1%)。月額 10 万円以上を希望する学生は 21.4%だが、実際に月額 10 万円以上受けている学生は 17.4%である。キャンパス別にみると、小金井で月額 10 万円以上の奨学金を受けている割合 (23.2%)が、市ヶ谷・多摩 (16.5%・15.7%)よりも高い 【Q7-2】。

「奨学金の使途 (複数選択可)」は、「学費 (86.4%)」が最も多い。次いで、「食費 (20.2%)」、「通学費 (18.1%)」、「住居費 (14.4%)」、「図書・教材費 (14.4%)」が選ばれている 【Q7-3】。

本学では「家計急変奨学金」を年 2 回 (6 月・11 月)募集しているが、それを知る学生の割合は 36.9%、知らない学生の割合は 62.9%である。学年別にみると、2 年生以上では 4 割以上の学生が知っている一方、1 年生で知っている割合は 3 割未満 (27.1%)である 【Q8】。

#### 4. 悩み・健康 (Q9～Q17)

「学生生活上の悩みや不安」が「ある」と回答した学生は 27.8%で、昨年度の 33.1%から減少した。悩みや不安が「ない」または「あったが解決した」と回答した学生の割合は 72.0%である。学年別にみると、「悩みや不安がある」と回答した割合は 2 年生 (32.8%)・3 年生 (32.6%)が、1 年生 (27.0%)・4 年生 (20.9%)と比べると相対的に高い 【Q9】。

悩みや不安のある(あった)学生に、「悩みや不安の具体的内容 (複数選択可)」を尋ねたところ、最も多かったのは「成績・単位」 (60.3%)、次いで「進路・就職」 (57.4%)であった。学年別にみると、「進路・就職」を最も多く選択したのは 3 年生 (71.6%)である。また 2 年生も「成績・単位」 (64.5%)と同じ程度、「進路・就職」 (60.0%)を選択しており、2 年生の段階から「進路や就職」に不安を抱いていることがうかがえる。一方、1 年生では「成績・単位」 (69.9%)が最も多く、学年ごとに悩みの中心が異なる傾向が見られる 【Q9-1】。

悩みや不安のある(あった)学生に「誰に相談したか (複数選択可)」を尋ねたところ、相談相手は家族や先輩・友人が多い (親 46.0%、兄弟・姉妹 11.1%、法政大学の先輩・友人 33.4%、法政大学外の先輩・友人 27.2%)。一方、大学関係の相談相手は「教職員」が 4.4%、「学生相談室・ハラスメント相談室」が 8.7%にとどまっている。特に、1 年生では「教職員」が 2.4%、「学生相談室・ハラスメント相談室」が 4.1%と低い、4 年生ではそれぞれ 7.5%、17.0%と学年が上がるにつれて利用度が相対的に高くなる 【Q9-2】。

なお、【Q9-2】で悩みや不安を「相談していない」を選択した学生が 33.9%いたが、解釈に注意が必要である。本設問は複数選択可であったため、仮に「悩みがあれば誰かに相談したが、誰にも相談しない悩みもあった」という学生がいた場合、「相談していない」を選択した上で、他の選択肢も選択した可能性がある (例えば「先輩・友人」等)。

「学生相談室の心理カウンセラーの存在」は、6 割 (60.0%)の学生に認知されている 【Q10】。

「健康状態について」尋ねたところ、「健康とは言えない」を選択した学生は 2.3%、「多少の不安がある」を選択した学生は 13.2%である 【Q11】。自覚症状のある学生に「症状 (複数選択可)」を尋ねたところ、「不安感」 (47.3%)、「無気力感」 (36.2%)、「不眠」 (31.9%)、「抑鬱感」 (28.5%)といった精神的なものが多く選ばれた 【Q11-1】。

また「現在の精神状態について近いもの (複数選択可)」を尋ねたところ、「元気である」 (54.2%)・「穏やかである」 (50.2%)が上位を占めた。一方で、「気分が落ち込んでいる」 (7.7%)・「孤立感・孤独感を感じる」 (6.8%)・「わけもなく悲しくなる」 (4.6%)との回答もみら

れたが、昨年度(それぞれ 9.7%→7.7%・8.1%→6.8%・6.1%→4.6%)と比較すると、これらの回答が選択された割合は、いずれも僅かであるが低下している【Q12】。

「精神状態を良好に保つために行っていること(複数選択可)」は、「睡眠を十分にとる」(64.1%)、「好きなことに打ち込む」(59.4%)、「人と話す」(53.7%)が上位を占める【Q13】。

1日の睡眠時間を尋ねたところ、「6時間(43.7%)」と回答した学生が最も多く、次いで「7時間(34.3%)」である。「5時間以下」の割合は、学年が進むにつれて減少する傾向にある(1年生 13.7%、2年生 13.2%、3年生 10.0%、4年生 5.8%)。逆に「8時間以上」の割合は、学年が進むにつれて増加する(1年生 7.0%、2年生 9.2%、3年生 10.7%、4年生 18.5%)【Q14】。

「食生活について」尋ねたところ、61.8%の学生が「3食食べる」と回答する一方、21.2%の学生が「時間や回数が不規則である」と回答している。学年別にみると、「3食食べる」割合は1・2年生(67.5%・62.8%)の方が3・4年生(53.3%・52.9%)よりも高い。また、「時間や回数が不規則である」と回答した割合は、1年生(17.5%)よりも、それ以外の学年(2年生 24.9%、3年生 23.4%、4年生 24.8%)の方が相対的に高い【Q15】。

「喫煙者」は全体の 3.0%である。学年が上がるにつれて喫煙者の割合は相対的に高くなる(1年生 0.8%、2年生 2.3%、3年生 4.2%、4年生 8.5%)【Q16】。

## 5. モラル・マナー (Q17～Q19)

「法政大学生のモラル・マナーの低下・欠如」を感じたことが「ある」と回答した学生は 35.5%、「ない」と回答した学生は 57.0%であった【Q17】。あると回答した学生に、「それはどのような時か(複数選択可)」を尋ねたところ、最も多く選択されたのは「授業中の私語」(75.8%)、次いで「授業の遅刻・早退」(49.5%)であった。コロナ禍のオンライン授業の影響でこれらの割合は低下していたが、対面授業の再開とともに元の水準(2019年度に実施した調査では、それぞれ 78.3%・50.0%)に戻りつつある。なお、「授業中の私語」・「授業の遅刻・早退」に次いで回答数が多かったのが「歩行マナー」(25.1%)である【Q17-1】。

「学内で危険な目にあった」ことが「ある」と回答した学生は 0.8%である【Q18】。あると回答した学生にその「内容(複数選択可)」を尋ねたところ、「宗教勧誘」が最も多く(50.0%)、「その他」(31.3%)、「ハラスメント」(25%)、「マルチ商法や高額機材購入などの悪徳商法」(18.8%)と続く。該当件数は限られているものの、「宗教勧誘」が昨年度の 18.2%から 50.0%と大きく増えている【Q18-1】。

「被害を受けた際に相談した相手(複数選択可)」は、「家族・友人(37.5%)」と「誰にも相談していない(37.5%)」が最も多い回答である(ただし、複数選択可の質問であるため【Q9-2】と同様の点に留意されたい)【Q18-2】。

## 6. 帰属意識 (Q19～Q21)

帰属意識については、「大学に親しみを持った経験」が「ある」と回答した学生は 53.6%である。キャンパス別では小金井では「ある」が 45.3%にとどまり、市ヶ谷(54.0%)・多摩(58.3%)に比べて低い【Q19】。あると回答した学生に「親しみをもちた契機(複数選択可)」を尋ねたところ、最も多く選ばれたのが「授業やゼミへの参加」(52.8%)、次いで「サークル活動」(44.7%)である【Q19-1】。

「法政大学校歌を歌えるか」については、「歌えない」を選んだ学生は 71.4%であった。「歌詞を見ずに歌える」が 9.1%、「一部うろ覚えだが歌詞を見ずにだいたい歌える」が 5.0%、「歌



詞を見ながら歌える」が 14.3%(合計 28.4%)である。学部別にみると、「歌えない」と回答した割合が最も高かったのは現代福祉学部の 84.5%である。一方、最も低かったのは GIS(61.5%)、次いでスポーツ健康学部(63.0%)であった。キャンパス別でみると、市ヶ谷において「歌えない」と回答した割合(68.6%)が多摩・小金井(75.5%・76.9%)に比べて相対的に低い【Q20】。

## Ⅱ 正課教育

### 1. 授業に期待していること (Q21)

「授業に期待していること(複数選択可)」を尋ねたところ、全学的には「新しい知識・発想」(76.0%)、「学問的知識・発想」(70.3%)、「探究心の充足」(37.4%)が上位3項目であった。一方、学部別に見ると、上位2項目はほぼ同じであるものの、経営学部・デザイン工学部・現代福祉学部では「探究心の充足」よりも「実務との関係」を期待する回答が多く選択されている。また、スポーツ健康学部では「探究心の充足」よりも、「人生の師との出会い」を期待する回答が多く選ばれている【Q21】。

### 2. 科目履修関連 (Q22～Q25)

「科目履修にあたり重視すること(複数選択可)」では、「内容」(83.2%)が最も多い。次いで「講義の時間帯」(70.2%)、「単位修得の難易度」(63.9%)が続く。「講義の時間帯」を挙げる学生をキャンパス別にみると市ヶ谷 73.9%、多摩 68.4%、小金井 58.0%である。また「単位修得の難易度」を挙げる学生は、1・2年生(66.9%・67.2%)と3・4年生(61.3%・54.5%)でわずかながら差がみられる【Q22】。

「科目履修に関して満足している点(複数選択可)」では、「関心のある科目が多い」(42.3%)が最も多く、「科目が多い」(37.6%)、「バランスよく学べる」(32.6%)、「履修に無理がない」(25.7%)が続く。なお「科目が多い」をキャンパス別にみると、市ヶ谷が 40.9%であるのに対し、多摩が 33.7%・小金井が 29.8%であった【Q23】。

一方、「科目履修に関して不満な点(複数選択可)」では、「同一曜日・時限に希望科目が集中している」という不満が最も多い(48.6%)。これが特に多い学部は、国際文化学部(63.2%)、キャリアデザイン学部(61.6%)、GIS(61.5%)である。なお、人間環境学部は昨年度の 61.2%から本年度は 45.5%に低下した。情報科学部(20.0%)、デザイン工学部(29.9%)、理工学部(33.3%)では、希望科目が集中することに対する不満の声は相対的に低い。次いで全学的に不満が多かったのが「抽選のために受講できない科目がある」(46.0%)である。これが特に多い学部は、国際文化学部(69.3%)とキャリアデザイン学部(63.0%)であり、キャンパス別では、市ヶ谷(53.5%)が多摩・小金井(30.7%・37.6%)よりも不満の声が多い【Q24】。

「1日の自習時間」について尋ねたところ、最も多いのは「1時間」(28.8%)である。次いで「1時間未満」(27.9%)、「2時間」(22.1%)と続く。昨年度と比べて、「1時間未満」(昨年度 23.5%)が増加し、「2時間」(昨年度 24.8%)の割合が低下していることから、自習時間が短くなっている傾向がうかがえる。学部別にみると、GISの学生は「2時間」が 38.5%、「3時間」が 23.1%を占め、また「4時間」も 15.4%に上るなど、他学部の学生と比べて、多くの時間を自習に割いている傾向が見られる。キャンパス別の最頻値をみると、多摩は「1時間未満」(34.9%)、市ヶ谷(29.6%)と小金井(28.1%)は「1時間」である。また、小金井では「2時間」(26.8%)と「3時間」(13.2%)が他キャンパスより多く、自習時間が長い傾向がみとれる【Q25】。

### 3. オンライン授業 (Q26～Q29)

「オンライン授業を受講している場所」は、「自宅」(49.0%)が最も多く、次いで「大学内のフリースペース」(13.8%)・「大学内の自習スペース」(10.6%)となっている。フリースペース・自習スペース・大学図書館を合わせた学内での受講割合をキャンパス別にみると、市ヶ谷が32.5%、多摩が21.5%、小金井が20.4%となっている。なお、「図書館」と回答した割合は多摩(7.3%)が、市ヶ谷・小金井(2.6%・3.1%)よりも多い【Q26】。

「オンライン授業を受講するための端末」として利用しているのは、「パソコン」が68.9%、タブレットが5.4%、スマートフォンが3.5%であった【Q27】。

「自宅でオンライン授業を受講するためのインターネット環境」を尋ねたところ、「プロバイダ契約をしている」(66.6%)を選択した割合が最も高い。ただし、本質問を開始した2021年度(83.4%)から、その割合は年々低下している【Q28】。

「オンライン授業と対面授業に対する考え方」については、「どちらも続けるべき」(66.5%)が最も多く、昨年度(60.4%)より増加した。【Q29】。

### 4. 教員とのコミュニケーション (Q32)

「教員とのコミュニケーション」に「満足している」学生は72.6%、「満足していない」学生は20.2%である。「満足している」と回答した学生の割合が高いのは、GIS(84.6%)、文学部(82.0%)、国際文化学部(80.7%)、スポーツ健康学部(80.4%)である。また、学年別にみると、「満足している」と回答する割合は1・2年生(69.3%・68.4%)と3・4年生(79.7%・80.4%)の間に差がみられる【Q32】。

教員とのコミュニケーションに満足していないと回答した者に「不満な点(複数選択可)」を尋ねたところ、「相談しにくい」(64.9%)・「機会がない」(58.0%)・「どこで教員と話せるのかわからない」(53.9%)との回答が多かった【Q32-1】。

## Ⅲ 正課外学習・課外活動

### 1. サークル活動 (Q35)

「サークルに参加している」と回答した学生は62.4%(昨年度52.3%)、参加していないと回答した学生は27.9%(昨年度35.0%)である。昨年度と比較して、サークルに参加している学生の割合が増えている。キャンパスによる違いは特にみられない【Q35】。なお、2013年度から2021年度までは、一部の例外を除き、1年生から4年生のすべての学年において、サークル活動に「参加している」が「参加していない」を上回っていたが、2022年度に初めて、1・2年では「参加している」が上回っているが3・4年では「参加していない」の方が多いという分布が現れ、これが23年度・24年度と続いていた。これに対し25年度は、1・2・3年では「参加している」が上回っているが、4年では「参加していない」の方が多い状況である。

サークルに参加していると回答した学生に「学内の登録団体」・「学内の非登録団体」・「インカレサークル」のいずれに参加しているのかを複数選択可で尋ねたところ、それぞれ93.8%・11.5%・4.3%となった。キャンパス別にみても特に差異はみられない【Q35-1】。

「サークルに費やす時間」で最も多かったのは、1週間あたり「3時間未満」(58.0%)であり、次いで「3～5時間未満」(18.2%)、「5～10時間未満」(13.2%)である。1週間あたり10時間に満たない範囲の参加が89.4%を占める【Q35-2】。

サークルに参加しないと回答した学生に「その理由(複数選択可)」を尋ねたところ、多く選ばれたのは「興味の持てるサークルがない」(43.7%)・「参加の必要性を感じない」(32.9%)であった。学部別にみると、生命科学部(70.0%)、キャリアデザイン学部(68.8%)、現代福祉学部(64.7%)で「興味の持てるサークルがない」が多く選ばれている。またGISでは、「学習に支障をきたす」(83.3%)が他学部と比較して高い【Q35-3】。

## 2. ボランティア活動 (Q36)

大学入学後のボランティア経験が「ない」学生の割合は72.8%で、「ある」学生の割合17.4%を大きく上回る。例外は現代福祉学部で、ボランティア経験が「ある」(63.8%)が、「ない」(20.7%)を大きく上回る。キャンパス別にみると、市ヶ谷(ある18.1%・ない72.8%)や多摩(ある23.3%・ない65.3%)に比べ、小金井(ある6.1%・ない83.7%)でよりボランティア活動経験のなさが際立つ【Q36】。

「ボランティア活動の内容(複数選択可)」を尋ねたところ、「地域活動」(36.5%)・「幼児・児童・高齢者支援」(30.8%)・「環境保護活動」(22.8%)などが多かった。学部別では(標本数の少ないものを除けば)、現代福祉学部では「幼児・児童・高齢者支援」(67.6%)、社会学部では「地域活動」(52.8%)、人間環境学部では「環境保護活動」(50.0%)が多い【Q36-1】。

また、「ボランティア活動への参加のきっかけ(複数選択可)」は、「サークルで参加」(41.6%)が最も多く、次いで「その他」(28.1%)、「友人・知人の誘い」(17.7%)、「お知らせ配信を見て」(17.4%)、「学内の掲示を見て」(11.4%)と続く。一方「大学ホームページを見て」は3.9%にとどまっている【Q36-2】。

## 3. 課外教養プログラム (Q37)

本学の「課外教養プログラム」について尋ねたところ、「知っているし、参加した事がある」が4.9%、「知っているが、参加した事はない」が44.4%であり、半数程度の学生にはプログラムの存在が認知されていた。他方、「知らなかったが、機会があれば、今後参加してみたい」は27.8%、「知らない、参加しようとも思わない」は13.1%であった【Q37】。

「知っているし、参加した事がある」と回答した学生に「どのようにして企画について知ったか(複数選択可)」を尋ねたところ、「大学からのメール・お知らせ配信を見て」の86.2%が突出していた【Q37-1】。

「知っているが、参加した事はない」と回答した学生に、「その理由(複数選択可)」を尋ねたところ、「授業やサークルで忙しい」が最も多く(69.8%)、「企画の内容に興味が無い」(26.3%)・「企画のテーマ(分野)に魅力を感じない」(16.1%)を大きく上回っている【Q37-2】。

## 4. 大学祭 (Q38・Q39)

本調査は6月から7月に実施されているため、1年生は大学祭をまだ経験していない。この事情を踏まえ、大学祭に関する質問は、2～4年生を対象とする設問(Q38)と、1年生を対象とする設問(Q39)に分けている。

2～4年生に「昨年度までの法政大学の大学祭に参加したことがあるか」を尋ねたところ、「サークルを通じて企画を出したことがある」と回答した学生が31.8%、「企画を出したことはないが、来場者として見に来たことがある」が17.4%であり、あわせて約半数(49.2%)の学生が大学祭に何らかの形で参加している。また「参加したことはないが、今後、参加してみたい」が11.0%、「無回答(N/A)」が25.9%であることから、何らかのきっかけがあれば、より多くの学生の参加が促される可能性が示唆される【Q38】。

「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」(14.0%)と回答した2～4年生に「その理由」を尋ねたところ、最も多かったのが「サークルに参加していないので、企画を出す機会がない」(35.9%)、次いで「企画や屋台の内容に興味を感じない」・「授業やアルバイト等で忙しい」(いずれも21.8%)、「(中高での経験も含め)学園祭というものがあまり好きではない」(12.7%)などが選択された。キャンパス別にみると、小金井では「授業やアルバイトで忙しい」(30.4%)、「企画や屋台の内容に興味を感じない」(34.8%)が、市ヶ谷・多摩と比較して高い【Q38-1】。

1年生に「本年度の法政大学の大学祭に参加する予定はあるか」を尋ねたところ、「サークルを通じて企画を出す予定である」が31.1%、「企画を出す予定はないが、来場者として参加する予定である」が25.7%であり、あわせて56.8%の1年生が大学祭に何らかの形で参加する予定であることがわかる。もっとも、調査時点ではまだ決めかねているという学生も多かったのであろうか、「無回答(N/A)」の割合が31.6%と最も多かった【Q39】。

「参加する予定はない」(11.5%)と回答した1年生に「その理由」を尋ねたところ、最も多かったのが「その他」(26.0%)、次いで「サークルに参加していないので、企画を出す機会がない」(25.0%)、「授業やアルバイト等で忙しい」(21.2%)、「企画や屋台の内容に興味を感じない」(18.3%)であった。1年生では「その他」を選択した割合(26.0%)が、2～4年生(7.7%)に比べて高い【Q39-1】。

## 5. 新入生歓迎会(祭)(Q40)

「今年度、新入生歓迎会(祭)に参加した」学生は全学で35.6%であった。この割合は、質問を開始した2020年度の14.5%から、年々増加しており、(2022年度のわずかな減少を除けば)一貫して上昇傾向にある。学年別にみると、1年生の参加は51.9%であり、予想されることではあるが2・3・4年生に比べて高い(26.7%・27.6%・10.2%)【Q40】。

参加した学生に「新入生歓迎会(祭)で何を得たか(複数選択可)」を尋ねたところ、1年生とそれ以外の学年では異なる傾向がみられる。1年生で最も多く選ばれたのは「キャンパスの雰囲気味わった」(60.7%)、次いで「サークルに加入した」(54.7%)、「法政の知人・友人ができた」(54.1%)であった。一方、2・3・4年生で多かったのは「その他」(37.1%・45.8%・37.8%)、「大学生である実感が湧いた」(35.2%・26.4%・37.8%)であった。4年生ではこれらに加え、「キャンパスの雰囲気を味わった」(37.8%)も多く選ばれている【Q40-1】。

## 6. ダブルスクール(Q41)

「法政大学以外の学校(専門学校・予備校等)に通っている(いた)」学生は4.2%であり、過去最低を更新した昨年度(3.6%)と同程度の低い水準にある。学部別にみると、ダブルスクールの経験は経営学部(8.6%)・社会学部(7.2%)・経済学部(5.8%)が、他学部よりも相対的に高い。な



お法学部で「通っている(いた)」と回答した学生の割合は、本年度は 4.2%と昨年度の 7.0%から減少している【Q41】。

## 7. 留学・国際化について (Q42)

「大学の国際化や留学」について興味があるかを尋ねたところ、最も多かったのは「特にない」で 39.9%あった。一方、「海外留学に興味がある」(27.8%)と「語学留学に興味がある」(16.1%)を合わせると、全体の 43.9%が何らかの留学に関心を示していることが分かる。学年別にみると、「海外留学に興味がある」と回答した割合は、1年生(35.7%)で最も高く、2・3・4年生(26.2%・18.8%・16.5%)に比べて相対的に高い。また、「海外留学したことがある(2週間以内の短期留学含む)」と回答した学生は全体の 6.4%で、1・2年生(3.2%・3.6%)に比べ、3・4年生(14.2%・11.8%)の割合が相対的に高くなる【Q42】。

## IV 大学について (Q43～Q47)

「法政大学を選んだ理由(複数選択可)」を尋ねたところ、最も多い回答は「勉強したい学部・学科があるから」(48.6%)、次いで「入試の難易度に応じて」(36.1%)、「六大学の一つで知名度があるから」(24.5%)である。一方、最も少なかった回答は「教授陣にあこがれて」(2.8%)であり、「文化・スポーツ活動が活発だから」(3.9%)、「オープンキャンパスに参加して」(9.5%)も少数であった【Q43】。

「大学生生活で大切だと考えていることは何か(複数選択可)」を尋ねたところ、「友人や先輩・後輩との出会い・ふれあい」(63.0%)・「幅広い教養を身につけること」(60.6%)・「専門的な知識を身につけること」(56.2%)・「就職先の決定」(50.6%)の回答が多かった。キャンパス別にみると、市ヶ谷・多摩では「幅広い教養を身につけること」(63.6%・59.4%)が「専門的な知識を身につけること」(56.0%・49.8%)を上回っているのに対して、小金井では「専門的な知識を身につけること」(66.4%)が「幅広い教養を身につけること」(49.8%)を上回っている【Q44】。

「最も充実・改善を望む施設・設備」を「1つだけ」尋ねたところ、多く選ばれたのは「食堂」(27.5%)、「一般教室」(17.2%)、「図書館」(10.6%)である。一方、スポーツ健康学部では、「スポーツ施設」(28.3%)の改善を望む声が最も多い【Q45】。

「最も充実・改善を望むサービス」を「1つだけ」尋ねたところ、キャンパスで回答に違いがみられた。市ヶ谷・小金井では「授業」(35.8%・30.2%)が最も多く選ばれたが、多摩では「交通問題(バス増便・運行時間延長等)」(51.7%)が最も多い。小金井でも 14.9%が交通問題と回答している(「授業」に次いで 2 番目に多い回答)【Q46】。

「学生向け窓口の対応に満足しているか」については、「満足している」(83.7%)が、「満足していない」(5.4%)を大きく上回った【Q47】。

一方、満足していないと回答した学生に「どのような改善点を望んでいるか(複数選択可)」を尋ねたところ、最も多かったのは「窓口の開設時間」(35.9%)、次いで「問い合わせ先の明確化」(31.1%)であった。「窓口の開設時間」の改善を望む回答は昨年度(24.2%)より増えており、キャンパス別にみると、市ヶ谷・小金井(45.8%・41.2%)が、多摩(11.1%)を大きく上回っている。これは本年度より市ヶ谷と小金井キャンパスで学部窓口の開設時間が短縮化されたことが影響していると考えられる。また標本数が限られているため慎重な解釈が必要であるが、小金井で最も多かったのは「応接態度(言葉遣い)」(47.1%)の改善を望む回答であった【Q47-1】。